

■その3・港北区菊名地区

1 菊名地区の概要

① 菊名地区の概要

菊名地区は、港北区の中心よりやや南よりに位置し、西は鶴見川、南はほぼJR横浜線によって区切られ、東は区境、北はほぼ連合町内会の境界と重なっている。比較的わかりやすいエリア設定の地区である。

地区内には、東急東横線、JR横浜線、東海道新幹線、市営地下鉄線の各駅があり、東京方面へも、横浜市中心部へも交通利便性が高い。

そのため、両方面のベッドタウンとして、東急東横線を中心として段階的に市街化が進展し、地区内には、開発時期の異なるゾーンが含まれる。また、縦貫する環状2号線、東海道新幹線、東急東横線による分断の影響も受け、菊名地区は次の5つの性格の異なるゾーンに分かれる。

② 菊名ゾーン

東急東横線およびJR横浜線菊名駅を中心とする既成市街地。昭和四十年以前よりDIDとなつている。山の手は良好な戸建て住宅地。駅周辺はやや下町的な雰囲気を残しているが、近年ワンルームマンションの増加が目立つ。公共施設も多く、区の一部を形成している。

③ 師岡ゾーン

東急東横線からの市街化圧力により開発が進む。大倉山駅寄りには昭和四十年～四十五年間にDIDとなり、残りは、昭和四十五～五十年にDIDとなつている。戸建て中心の良好な住宅地。区総合庁舎、公会堂が立地しており、菊名ゾーンとともに、区を中心を形成している。

④ 太尾ゾーン

昭和四十年～四十五年にDIDとなる。大倉山駅を中心として形成された商店街が中心となつている。住宅は戸建てが多い。

⑤ 大豆戸ゾーン

大規模なマンション群の建設により、昭和五十年～五十五年間にDIDとなったゾーンである。一部、住工混在しているところもあるが、マンション化が進んでいる。

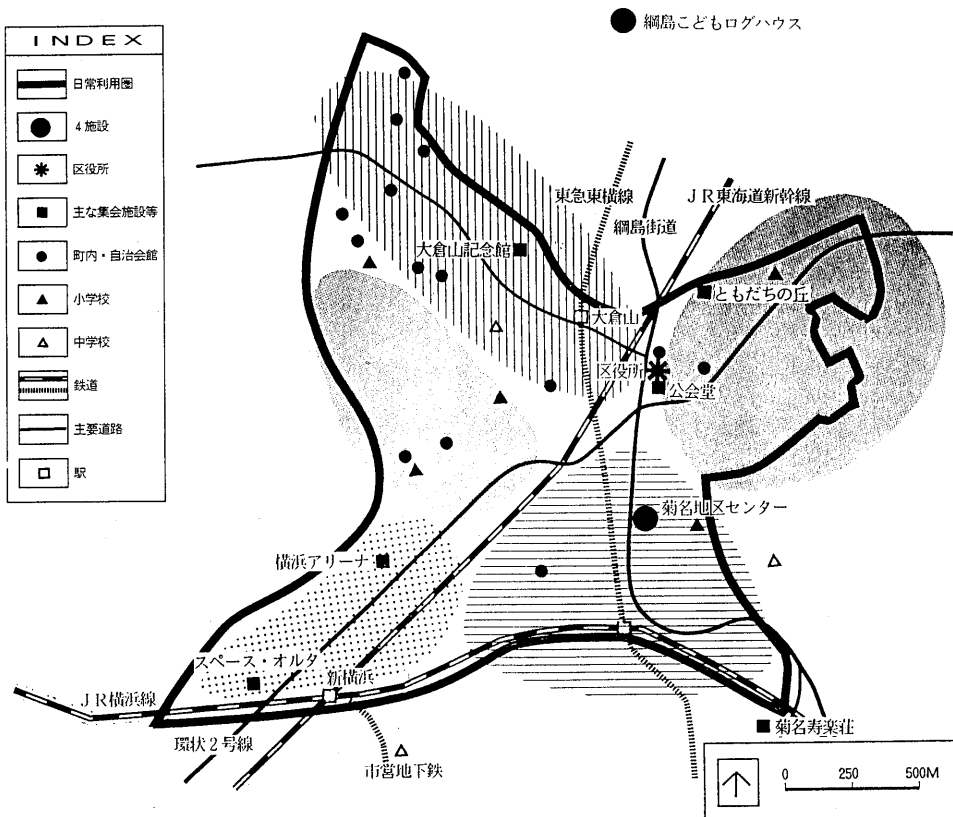
⑥ 新横浜ゾーン

新横浜都心に指定されており、業務の集積が進んでいる。

人口は、表のとおりで、現在も若干増加している。高齢化率は高くはないが、地域による片寄りが著しく、菊名駅から山の手にかけては、高齢化が進んでいる。

土地利用は、綱島街道沿い、大倉山駅、菊名駅を中心に商業系、新横浜は業務系となつているほかは、住居系が多くを占めるが、一

図 - ゾーン区分・地域施設配置図



1 菊名地区の概要
2 ヒアリングから

部工業系が見られ、住居系と混在しているところもある。農地は少ないが、大倉山公園や熊野神社市民の森といった公園のほか、斜面緑地が自然系の土地利用として残っている。

② 施設の状況

菊名地区は、区を中心であるため、大倉山記念館、港北図書館、公会堂など広域的な施設が多数立地している。そのほかに身近な地域施設老人憩の家、青少年図書館、菊名地区センター、さらに民間の施設もある。しかし、広域的な施設に比べ、身近な施設は十分とはいえない。

2 ヒアリングから

① ヒアリング協力者

菊名地区連合町内会長、自治会長（大倉山ハイム）、体育指導員、元子供会会長（コーラスグループ代表）、大倉山西口商業協同組合、学童保育、子育てグループ、介護者の集い、障害児自主訓練会、障害者地域作業所、障害者の親の会、生涯教育学級（養護学校教諭）、大倉山水曜コンサート事務局、篠原セミナー（生涯学習）、横浜高速環状道路に反対する北部住民連絡会

② 旧住民、新住民

菊名地区の住民は、旧住民と言われる古くから住んでいる地付きの住民と、新住民と言われるベッドタウンとしての開発に伴って転入してきた住民に大きく分かれる。

新住民は、横浜都民という言葉で象徴されるように、地元意識が薄いと言われている。

また、新住民のなかでも、昭和五十年〜六十年にかけて、大規模マンション群に転居してきた住民は、比較的裕福で独特の住民層となっており、学歴の高い人が目立ち、専業主婦が多いなどマンション族とも称されている。転勤などやや流動的な面もあるが、ある程度定住意向のある住民層である。

大規模マンション群



③ 顕在化しにくい地域課題

菊名地区においても、子育て不安、子供のいじめや不登校、老人の二人世帯、一人世帯の増加や要介護老人の増加など高齢化に伴う課題、障害者の就労の不足や介護者なきあとの障害者に関する課題など、他の地区と共通すると思われる課題がある。

さらに、菊名地区特有と思われる課題としては、地域の生活環境の悪化があげられる。ワンルームマンションの増加による日照不足や住民意識の低下、宅地造成による斜面緑地の減少、さらには高速環状道路の建設による環境の変化も懸念されている。

しかし、菊名地区において最も特徴的なことは、各家庭が抱える課題が顕在化しにくいという点である。近隣とのつきあいが少なく、流動的な住民、プライバシーを重視する住民が多い。問題を隠したがる傾向にあり、多くの

の家庭で同じような課題を抱えているが、それが地域の課題として認識されることが少ないのである。そのこと自体が最も大きな地域課題とも言える。

④ 町内会活動に対する意識の異なる旧住民と新住民

菊名地区は、師岡連合町内会（菊名連合町内会より分離）と太尾連合町内会、菊名連合町内会の一部が含まれており、単位町内会の数は二十七である。町内会館、自治会館をもっている単位町内会数は十六で整備率は六割弱である。

各連合町内会の会長は、旧住民の六十歳以上の男性（自営が多い）が占めている。地域を代表して、区役所が組織する各種委員会に委員として参加するなど、区役所との関係が深い。名誉職的な面もあるが、地域のことを良く把握しており、地域のためにという意欲も高い。

単位町内会は、旧住民が多く占める旧住民系町内会と、新住民が多く占める新住民系町内会がある。また、太尾連合町内会には、新住民系の町内会の中でも、一つのマンション群で一つの自治会を組織するマンション自治会が多く存在する。

旧住民系町内会は、連合町内会と密接に関係しており、広報やチラシの配付や回覧、寄附金集めのほか、親睦活動も行われている。それに対して新住民系町内会は、役員は輪番制など義務的で、負担が重すぎるなどの声も聞かれ、町内会活動に対して意欲的とはいえない。

表-菊名地区の概要

人口	51,280人	高齢化率	7.1%
世帯数	21,747世帯		
町丁	菊名4〜7丁目、篠原北2丁目、新横浜、大豆戸町、太尾町、師岡町		
鉄道最寄駅	東急東横線（菊名、大倉山）、JR横浜線（菊名、新横浜）市営地下鉄線（新横浜）、東海道新幹線（新横浜）		
地域施設	菊名地区センター町内会館	主要商店街大型店	菊名駅ビル 新横浜駅プリンスPePeショッピングセンター 大倉山商店街 菊名地区商業会 菊名西口商店街

ティータイム-地域に無関心の人が多い

自治会長（マンション自治会）
「前回の参院選の投票率は、港北区は十六区中十五位と大変低く、無関心ぶりが目立っていた。各々自分の生活のペースができてきていることや、転勤などで入れ替わりがはげしいこともその原因かもしれない。」

菊名地区住民
「菊名の周辺では、町内会も含めて高速環状道路への議論が盛りあがらない。生活環境に対して関心が低いのは、住民に「終の住処」という意識が小さいからではないか。」

⑤ 四十代、五十代女性が牽引力の多様な活動グループ

菊名地区では、学童保育をはじめとする課題解決のための活動から、自分の趣味の充実や地域の文化振興を目指す趣味・生涯教育の活動、あるいは商売から派生して、広くまちづくりを展望する活動など、様々な活動が行われている。その担い手の多くは、四十代以上の女性である。

菊名地区は、なかなか個々に抱える問題が顕在化しにくい、ひとたびそういった問題を抱える住民や問題意識をもった住民がまとまり、活動が動き出すと、高い意欲で高いレベルの活動を展開する。

⑦ 課題対応タイプ―障害者団体、学童保育、介護者の集い

菊名地区には、地域活動ホームを拠点とする四グループのほか、いくつもの障害者に関するグループが存在する。活動内容は、作業所、自主保育、自主訓練会、親の会など様々であるが、各グループに共通することは、三十代以上の女性が活動の中心を担っているということである。数人の中心的メンバーが、意思決定から多種多様な雑用までこなし、運営をリードしているように見える。メンバーのほとんどが、障害児・者を抱えた母親で、そういった子供を抱えながら、グループの設立、活動場所の確保、運営の確立などなみなみならぬ試練を越えてきているため、穏やかな語り口の中にも強い意思やたくましさを感じさせる女性が多い。

これらのグループは、行政からの助成金を受けているが、運営費は不足しており、大き

な問題となっている。バザーを開くなど運営費を補う工夫をしているが、十分とは言えず、負担も大きい。さらに、煩雑な事務手続きをこなすための専門の職員の確保も課題となっている。

そのほか、民生委員が中心となり、自宅で老人を介護している介護者を支援する介護者の集いや学童保育といった活動もある。

介護者の集いは、参加者が少ないことが、場所や指導員の確保など幾多の困難を越えて開設した学童保育においては、運営費の不足が大きな問題となっている。

⑧ 趣味・生涯教育タイプ―文化団体、親子サークル

菊名地区センターの自主事業をきっかけとして生まれたグループをはじめとして、菊名地区には多くの文化的な活動を行うグループがある。これらのグループの多くは、楽しむことや、友達づくりを目的としているようである。なんとなく消滅してしまうことも多いようだが向上心を持って熱心に活動を続けるグループもみられ、なかには海外へ演奏旅行に出掛けるというコーラスグループもある。

そういった趣味的なグループのほかに、地域のみならず港北区の文化の向上に貢献するような活動を展開しているグループがある。一つは、著名な文化人による講演会を開催している篠原セミナーであり、いま一つは、プロの音楽家によるコンサートを開催している大倉山水曜コンサート事務局である。

これらの二グループの、設立の経緯は、PTA活動から、施設の事業部門からと異なるが、四十代以上の女性が中心であること、友

達づくりや自分の向上という目的ではなく、社会へ働きかける活動であること、地域への貢献に対して自負をもっていることなどが共通している。文化という視点の区を視野に入れたこれらの活動は菊名地区独特の活動と言っ

ティertime―把握しづらい実態

介護者の集い 民生委員

「友人がなく家にとじこもっている老人や、老人性痴呆症など要介護老人が増えている。また、介護者の高齢化による共倒れの危険など高齢化の問題は山積している。ところが、介護者の集いは、「近所に知られると体裁が悪い」「家族が反対する」などの理由で参加者が少なく実際にどの程度の介護者がいて問題を抱えているのか、実態が把握できない。民生委員として、問題を抱えている家族を把握して援助したいと思うのだが、扉一つで遮断されるマンションではなかなか事情がわかりづらいなど、結局、問題がかなり深刻化して表面化することになってしまう。」

二グループとも、課題対応タイプと同様、資金の不足が最も大きな課題となっている。その他、保健所の保健婦が中心となってグループづくりを進めている親子サークルも多数ある。親子サークルは、公園やマンシヨンの集会所などを活動の場として、遊戯や工作、料理など子供と遊びながら、母親同士も交流したり、情報交換を行ったりしている。子育て不安の解消につながるという点では課題対応タイプとも言えなくもない。

⑨ まちづくりタイプ―商業共同組合、住民運動

菊名地区には、そのほか、商売と連動させつつも、広い視野でまちづくりを展望した活動を行っている商業共同組合や、よりよいまちづくりを目指して住民運動を展開しているグループもある。

商業共同組合は、地域のシンボルである大倉山記念館をモチーフにした商店街の近代化や、アテネ市のエルム通り商店街との姉妹提

料理教室



大倉山水曜コンサート事務局



⑥ ① 独立的な個々の活動

菊名地区では、様々な自主的な活動があるが、グループ同士の連携は概して希薄である。いくつか関係の深いグループ同士もあるが、多くはお互いに知ってはいるといった程度の関係である。しかし、介護者の集いのように、同じ活動をするグループのネットワークを構築しようという動きもある。

また、町内会と自主活動グループとの関係も深くない。ただし、課題対応タイプのグループは、活動にとって、町内会の理解を得た方が円滑に活動ができると考えているグループや、実際に町内会館を借りたりと援助を受けているグループもあり、何らかの形で町内会

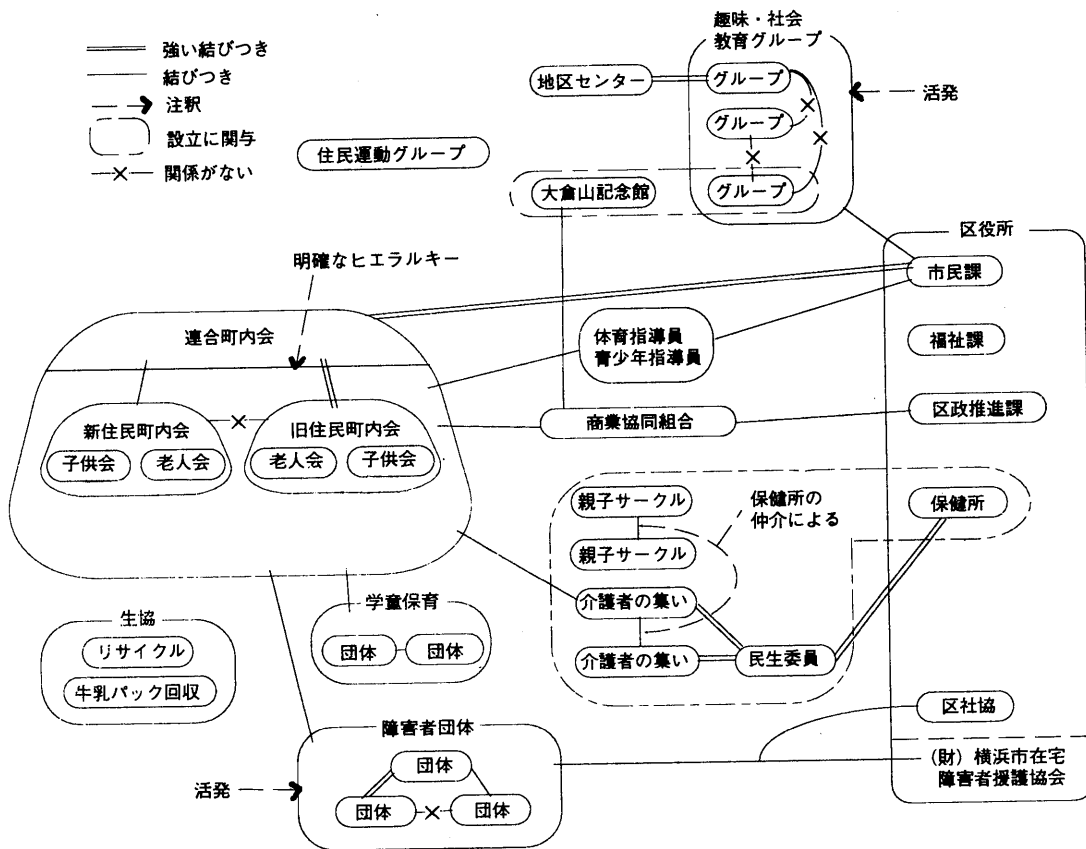
携、地域のボランティアを募りエーゲ海フェスティバルなどを行っている。また、今回、ヒアリングは実施しなかったが、新横浜にはオフィス町内会もある。

これらのグループの特徴は、四十代以上の男性が中心であることだ。また、商店会やオフィス町内会は居住者でないメンバーも多い。

大倉山商店街



町内会、自主活動グループ、行政関係図



とは関係のあるケースが多い。町内会長が運営委員として参加している場合もある。町内会内部でも、旧住民系の町内会と連合

町内会の関係が強いのに比べ、新住民系の町内会は関係が薄い。

囲碁を楽しむ個人利用者



書道グループ



菊名地区センター



学童保育



⑦施設の利用状況と評価

⑦多彩な活動の場―菊名地区センター

菊名駅から徒歩五分程度と近く、利便性が高く、一日平均三百人弱の人に利用されている。利用者の約八割を区民が占めているが、地区内を縦断する環状二号线が分断要素となり、それ以西の住民には心理的に遠く感じられて利用しにくいという声もある。

婦人の利用が最も多く、次いで六十五歳以上の老人の利用が多い。登録団体は、自主事業から生まれた団体も多く、文化的な活動が多い。ダンスやスポーツなどの団体も利用しており、近年は、特に高齢者のダンスの利用が増えている。そのほか、地域団体やボランティアの団体なども利用しており、多彩な活動の場となっている。個人による利用では、老人の囲碁、将棋が多い。

菊名地区センターは、直営館の一つで港北図書館と併設している。

もともと区庁舎であった施設を改装しているため、老朽化が著しく、部屋の大きさや、防音性、各部屋のつながりなど機能面や使い勝手の面の不満の声も聞かれる。また、体育室もない、ハードの面では若干問題がある。図書館との併設については、活動に必要な資料が簡単に入手できる、地区センターにはないコピーサービスが利用できて便利など利用者にとってはメリットが大きいようである。その一方、管理する側にとっては、区分が明確でないことが問題点となっている。

利用団体にとって、菊名地区センターは、活動の場として利用できる、しかも無料であるという点が高く評価されている。しかし、

運営については不満の声も聞かれる。最も多い意見は、飲食を認めてほしいというものがある。ついで、来館しなければならぬ予約方法、定期的な利用が認められていないこと、閉館時間が早いなどである。また、施設の不足から生じる問題でもあるが、月一回しか利用できず、利用希望者が多いため抽選制で必要な時に利用できないという不満の声もある。

⑧幼児づれ母子の友だちづくりの場―綱島こどもログハウス

幼児づれの母子の利用が多く、東急東横線を利用して、大倉山や菊名からも来館する。一組で来る母子も多く、友だちづくりの場となっているようである。

平成四年六月の開館当初は、小学生の利用も多かったが、最近では顔ぶれが固定的である。一人で来る子どもは少なく、グループで来て遊ぶようである。二階や地下、吹抜という造りのおもしろさを生かし、おにごっこやかくれんぼのような単純な遊びが好まれている。

⑨利用の広がる町内会館

町内会関係以外の活動にも開放している町内会館もあるが、なかには、利用グループの中に町内会に所属していない住民がいると利用できない場合もある。

大豆戸町内会館は、そういった制約もなく、また管理者が隣に住んで管理しているため、町内会以外の活動にも利用しやすくなっており、介護者の集いなどに利用されている。マンションの集会所も、自治会活動のほか、子育てグループなどに利用されている。

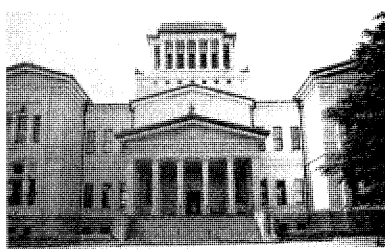
⑩人気の文化活動の場、大倉山記念館

主として、文化活動グループに利用されて

いる。会議室を使った集会や研修、音楽の練習、百人程度収容のホールを使ったコンサートや発表会などに利用されている。特に、中庭を囲む回廊タイプのギャラリーは人気が高く、利用は抽選になることもある。

文化的な雰囲気をもった柔軟な運営が心掛けられており、三十代から五十代の主婦にとって、恰好のグループ活動の場、社交活動の場となっており、ボランティアの参加者も多く、「文化」をキーワードにして、様々な人や情報が交流する場となっている。

大倉山記念館

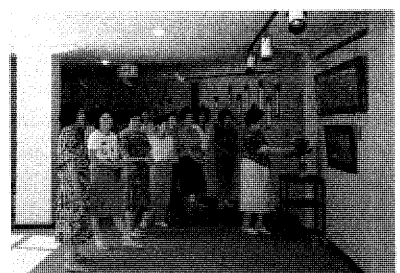


⑪利用者の多い老人福祉センター菊名寿楽荘

菊名駅から徒歩で十分ほどの距離にある菊名寿楽荘は、館長の話によると、市内の老人福祉センターの中でも利用者の多い施設にあげられるということである。人気の高い理由としては、お風呂があること、施設の目の前にバス停があり、歩く距離が短くてすむことらしい。公共交通機関の無料パスを使い、磯子区、戸塚区以外の全市から来館する。

ほとんどが個人利用で、利用者は男性が多い。自主事業として開いている講座の参加者

大倉山記念館ギャラリー (書道作品展)



―ティータム―ほしい活動拠点

学童保育指導員

「なかなか学童保育に利用できる場所がなく、大変な苦勞をして、大家さんの好意や父母からの債券による資金援助を得て、ようやく開設した。しかし、児童数に対して部屋は狭く、交通量の多い道路に面しているなど問題も多い。行政は児童が増えれば、もう一つつくれば良いと簡単に言うが、場所の確保は並み大抵ではできない。その一方で、あまり活用されていない公共の施設もある。」

水曜コンサート実行委員会代表

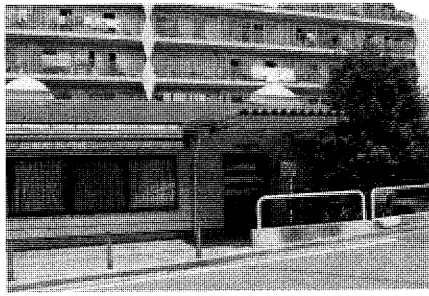
「音楽家に演奏の場を提供し、音楽好きの区民に安くコンサートを楽しんでもらう事を主な目的として、10年活動してきた。活動が継続できたことの大きな要因の一つは、定まった活動の拠点があったという事であると思う。活動が充実して育つには、安定した拠点が不可欠である。たとえ公共の施設でも、勇断をもって前向きに検討してほしい。今は、そのためのシステムを作る事が必要かと思われる。」

も多い。多くの来館者は、まず入浴し、囲碁や将棋、歌、踊りなど、各々楽しんでい。なかには一日中過ごすという人もいろいろいる。

④四つグループで使う障害者地域活動ホームともだちの丘

二つの障害者地域作業所と、自主訓練会、障害者の親の会の四グループが利用している。地域の代表者と各グループの代表者からなる運営委員会により運営されている。

ともだちの丘



⑤地域施設ニーズ

⑦専用施設・スペース

毎日あるいは週に複数日活動する学童保育や障害者関係のグループにとっては、専用の施設は必須であり、施設がないと活動は成り立たない。また、大倉山水曜コンサート事務局の例からもわかるように、専用のスペースがあることは、活動の育成につながる。

⑧定期的に利用できる施設

町内会館や地区センターを利用しているグループから、「定期的に利用できる」「優先的に予約できる」ことは、活動にとって大き

な支援になると評価されている。

定期的な活動の場がなく、あちらこちらの施設を転々としているグループは、連絡業務、施設の利用申込日に朝早くから並んでの予約手続きなど、活動の場の確保のために大変なエネルギーを使っている。

定期的に利用できる施設は、自主活動グループの夢である。

⑨必要な時に気軽に利用でき、ふらりと立ち寄れる施設

定期的に利用できる施設とともに、予約しなくても必要な時に気軽に利用できる施設がほしいという意見もある。予約利用では、一月上旬に予定が決まっていなければならぬ。

また、「この地域に必要な施設は」という問いに対して、多くの人から、「様々な人が気軽にふらりと集まれる施設」があげられていた。障害者関係や老人関係のグループにとっては、地域に住む様々な人が交流できる場になるという意義も大きいようである。

このような意見は、活動の種類や活動しているかどうかに関係なく様々な人からあげられており、菊名地区では、気軽に使える、必要な時にいつでも使える、個人でもふらりと立ち寄れる施設が必要とされていると言える。

⑩子ども、老人、障害者、生涯学習・文化活動のための施設

比較的、教育熱の高い地域であり、子どものストレスの問題を反映して、学童保育や児童館のように、子どもが放課後のびのび過ごせる施設を望む声があがっていた。

老人のための施設としては、老人を受け入れてくれる病院、障害者のための施設としては、ショートステイできる施設、いずれもどうしても自主活動や在宅の介護だけでは対応できない場合の施設が求められている。また、障害者関係のグループからは、地域で働ける場や障害者施設と集会施設の複合施設など、障害者が地域に溶け込んで暮らしていくことのできる環境の整備が望まれている。

そのほか、文化活動を行うグループからは、活動にとって必要というだけでなく、地域のイメージアップのために、地域のカラーを生かしたレベルの高い、まちの誇りになるような文化施設が要望されていた。

⑪住民組織と行政、自主活動グループと行政の関係づくり

区役所と自主活動グループの関係は、区役所と町内会の関係と比べると弱い。

こういった関係は、行政側の担当者のパーソナリティに負うところが多く、区（もしくは担当係）対グループというよりは、人対人の関係になっている。このため、担当者の異動により関係が希薄になるケースもある。

自主活動グループの地域に果たす役割を考えると、行政と自主グループが連携していくことも必要であろう。また、自主活動グループの多くは、運営費不足が問題になっており、活動の場の提供のほか、資金の提供など行政からの支援を望んでいる。まずは、行政とこれらグループとの関係づくりが必要である。

△ヒアリング、文章とも美木由里香▽

ティertime—積極的支援を—

篠原セミナー

「PTAを母体として、まだカルチャーセンターのない時代から16年間活動を続けてきた。身近なことより、歴史、文学、時事などアカデミックに学習していくことを目的に、菊名地区センターを拠点に、多様な文化人を講師として招いて年10回講演会を開催している。地域の文化の向上に貢献していると自負しているが、活動は資金的にも十分ではなく、職員の異動でそれまでの信頼関係がなくなってしまったりと、行政の施策上生涯学習を育てようという積極的姿勢があまり感じられない。」